

タイ人日本語学習者の漢字語彙学習に対する ストラテジー使用の現状

小林 英弘*

(2019年10月28日受理)

The Current Situation of Kanji Vocabulary Learning Strategies Used by Thai Students

Hidehiro KOBAYASHI*

(Received October 28, 2019)

Abstract

Thai university students use various strategies in “kanji vocabulary learning”. A questionnaire was constructed based on 88 students majoring in Japanese language. Analysis showed that according to their period of study, there was a difference and correlation in the strategies used. The results are described below.

1. In all the period of study, a strategy of “repeated silent reading” is more widely used, which implies that students tend to use less strategy of “hands” writing. Also for the strategy category, it is obvious that “affective category” was most frequently used.

2. For the students who have been studying for a short period, the strategies in “repeating category” are frequently used. However, in the longer period of study, the less frequently they are used. After a long period of study, there was no significant difference in top five most used strategies.

【キーワード】 非漢字圏学習者、漢字学習ストラテジー、漢字語彙、learning strategies

1. はじめに

筆者が勤務するタイ国 Dhurakij Pundit University ビジネス日本語学科（以下 DPU）の学習者は、入学してから日本語学習を始める学習者が多い。そういった学習者から「漢字が難しい」という相談を受けることがある。豊田（1995）は、「漢字は学習者にとって重要な学習要素であるが、時間的制約等の理由からその大部分が学習者の自学自習に委ねられてきた。」と述べている。豊田の指

*Dhurakij Pundit University, Faculty of Arts, 110/1-4 Prachachuen RD, Laksi, Bangkok, 10210 Thailand

摘通り、DPUでも漢字学習は学習者自身に任されているため、これまで学習者の漢字学習ストラテジーの使用状況は不明であった。このような状況を踏まえ、筆者はDPUの学習者がどのような漢字学習ストラテジーを使用して学習を進めているのかを明らかにする必要があると考えた。

非漢字圏学習者を対象とした漢字学習ストラテジーの先行研究では、Oxford (1990) のストラテジー分類 SILL (Strategy Inventory for Language Learning) や、Bourke (2006) の漢字学習ストラテジー分類 SILK (Strategy Inventory for Learning Kanji) を参照している研究が多い (大北 1995, 中村 1997, 齊藤 2003, 中鉢 2006, ヴェントゥーラ 2007, ソムチャイ 2008, 坂野・池田 2009, マテラ 2013, 佐藤・笠原 2016, 谷口 2016)。

しかし、ウラムバヤル (2009) は、SILL や SILK を使用した質問紙調査は単漢字に着目した質問項目が多く、熟語や文脈の中での漢字語彙に着目した質問項目が少ないと言及している。また、渡部 (2015) では、「SILK は文字としての漢字の学習を想定した学習ストラテジー項目がほとんどを占めている」と漢字学習ストラテジー分類における問題点を指摘している。

そこで、本稿での質問紙調査では、「単漢字」や「文字としての漢字」に着目した従来型の「漢字学習ストラテジー」ではなく、文脈の中での漢字語彙に関する質問項目を数多く含む「漢字語彙学習ストラテジー」での質問紙調査を行う必要があると考えた。

本稿の目的は3点である。1点目は、新たな漢字語彙学習ストラテジー尺度の開発である。2点目は日本語学習者の「漢字語彙学習ストラテジー」という観点から調査を行い、具体的なストラテジーの使用傾向と漢字語彙学習の現状を明らかにすることである。3点目は、学習期間の長さによる漢字語彙学習ストラテジーの使用について検証を行うものである。

2. 先行研究

非漢字圏学習者を対象として漢字学習ストラテジーや、漢字学習ストラテジーとビリーフの相関関係について分析している先行研究として、大北 (1995)、ヴェントゥーラ (2007)、ソムチャイ (2008)、坂野・池田 (2009)、マテラ (2013)、佐藤・笠原 (2016) が挙げられる。

大北 (1995) は、米国ハワイ大学に在籍する日本語学習者 84 名を対象にして質問紙調査を行った。その結果、最も多く使用されていたストラテジーは「書写」であることが明らかになっている。また、ヴェントゥーラ (2007) は、大北 (1995) の質問項目を一部借用した質問紙調査とインタビューをフィリピンで行っている。その結果から、学習者が最も使用しているストラテジーは「新しく習った漢字を繰り返して書く」ことなどを報告している。

ソムチャイ (2008) では、タイ人学習者 197 名を対象として質問紙調査を実施した。調査票は、ヴェントゥーラ (2007) が使用したものを一部借用してタイ語に翻訳している。その結果から、タイ人学習者が多用しているストラテジーは「よく知らない漢字に振り仮名を振る」、「漢字を覚えるために繰り返して書く」だと報告している。

坂野・池田 (2009) は、学習者 151 名を対象として、既習漢字数の違いによって3つのグループに分けて調査を行った。その結果、全てのグループで最も使用されているのは「漢字を繰り返し書く」であることなどを報告している。

また、マテラ (2013) では、チェコの大学で学んでいる学習者を対象として調査を行った結果から、最も使用されている漢字学習ストラテジーは「漢字を繰り返し書いて記憶する」だと報告している。佐藤・笠原 (2016) は、マレーシア高専予備教育コースのマレー・インド系学習者 109 名を対象として調査を行った。その結果から、学習者が最も頻繁に使用しているストラテジーは

「漢字を何度も書く」ことだと報告している。

次に、漢字学習ストラテジーと学習期間の関連性を論じている研究としては、齊藤（2003）、谷口（2016）が挙げられる。齊藤（2003）は、マレーシア政府派遣留学生を学習期間ごとに3年、4年、5年、6年、7・8年と分類して調査を行った。その結果から、「一般的なストラテジー」、「基本的なストラテジー」、「複合化・個別化したストラテジー」という3つの分類を報告している。

また、谷口（2016）では、マレーシアの日本語学習者を対象として、入学後4ヶ月と1年後の2回調査を行ないストラテジー使用傾向の変化を分析している。その結果から、学習期間が長くなるにつれて「漢字知識を整理する」ストラテジー使用頻度が高くなること、さらに「覚えるまで何度も書く」というストラテジー使用頻度が下がることを報告している。

最後に、従来の漢字学習ストラテジー研究の概観を行い、その問題点について論じている研究としてウラムバヤル（2009）、渡部（2015）が挙げられる。

ウラムバヤル（2009）は、従来の非漢字圏日本語学習者を対象とした研究の多くはOxford（1990）のSILLやBourke（2006）のSILKに基づいているが、質問項目の数や内容が不揃いであること、記憶ストラテジーの項目数が多いことや、ストラテジー項目の分類方法に課題が残ることを指摘している。また、「漢字学習成功者が文脈の中で漢字を使用している傾向が高い」ことなどを報告している。

渡部（2015）では、SILLやSILKの項目に代わる新たな87項目の「漢字語彙学習ストラテジー」の質問調査票の開発を試みているが、「漢字語彙学習ストラテジー尺度」としては未完成の段階であると報告している。

以上を踏まえ、本稿では先行研究で指摘されている、SILLやSILKを用いた質問調査票の項目数や内容の不揃いと、文脈や漢字語彙に関連するストラテジー調査項目数の少なさについて改善を行い、タイ人学習者の「漢字語彙学習ストラテジー使用の現状」について調査を行なうことを目的とする。タイ人学習者による漢字語彙学習ストラテジー使用の現状と、日本語学習期間との関連性を扱った実証研究は管見の限り見当たらない。これらを明らかにすることが本研究の意義だと考える。

3. 調査方法

3.1. DPUでのインタビュー予備調査

渡部（2015）が作成した、87項目の「漢字語彙学習ストラテジー」質問調査票はJSL（Japanese as a Second Language）環境の対象者から作成されたストラテジー項目であり、JFL（Japanese as a Foreign Language）環境におけるタイ人学習者の調査に適用するには問題があると考えられる。そのため、DPUに所属するタイ人学習者12名に対して半構造化インタビューの予備調査を行った。その結果、合計55項目の漢字語彙学習ストラテジーが抽出された。その内44項目は渡部の質問調査票に既出のものであり、新たに抽出されたストラテジーは11項目である。

3.2. DPUでの本調査

対象者はDPUに所属する日本語専攻のタイ人学生106名である。

まず、予備調査で新たに抽出された11項目のストラテジーと渡部（2015）の87項目を加えて「合計98項目」とした。しかし、渡部の87項目には「街中の漢字語彙を注意して見る」「テレビを常に日本語の字幕が出る設定にする」といった日本での学習環境に起因する項目や、「日本語の学術書を読む」といった高度な日本語能力が必要とされる項目も含まれている。そこで、JFL環境

下のタイ人学習者向けに改めて内容の精査を行い、最終的に42の調査項目と7つのカテゴリー分類を設定した。カテゴリー分類の名称は、渡部(2015)の調査で行われた因子分析での因子名を参考にして筆者が命名を行った。以下表1にて調査項目を記す。

表1 調査に用いた漢字語彙学習ストラテジー 42項目

カテゴリー分類	漢字語彙学習ストラテジー
①文脈 6項目	1 日本語で日本の漫画を読む
	2 日本語の歌の歌詞を読む
	3 日本語の小説を読む
	4 日本語で書かれたニュースをインターネットで読む
	5 日本人が書いたブログを読む
	6 日本語でテレビゲームをする
②情意 6項目	7 よく使う漢字語彙の意味を覚える
	8 よく使う漢字語彙の読み方を覚える
	9 自分にとって重要な漢字語彙を覚える
	10 どれが自分にとって重要な漢字語彙かを判断する
	11 * 音楽を聞くなどして、リラックスして覚える
	12 * 漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える
③反復 6項目	13 漢字語彙リストを繰り返し見る
	14 心の中で繰り返し読み方を唱える
	15 たくさん漢字語彙を書いて練習する
	16 新しく覚えた漢字語彙の復習をして、忘れていたら何回も書いて練習する
	17 * 繰り返し指で空書を行い、筆跡をイメージする
	18 * 繰り返し読み方を口に出しながら覚える
④理解・記憶補償 6項目	19 漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の意味で推測する
	20 漢字学習用のアプリで漢字語彙を覚える
	21 前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する
	22 漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の部首で推測する
	23 * 写真を撮るような感覚で、漢字語彙を映像として頭に記憶する
	24 漢字語彙の中で漢字の音読み・訓読みを覚える
⑤関連付け 6項目	25 自分で漢字語彙のルールを見つける
	26 漢字語彙と一緒に読み方を書いて覚える
	27 同じカテゴリーの漢字語彙を一緒に覚える
	28 * 漢字語彙を分解して、パーツとして覚える
	29 * 音楽を聞きながら、歌詞の漢字や文字を頭の中で思い浮かべる
	30 * 読み方と、タイ語の訳語を交互に口に出しながら覚える
⑥積極的接触 6項目	31 スマートフォンの言語環境を日本語に設定する
	32 すきま時間にフラッシュカードで繰り返し練習する
	33 ドラマやアニメの中で使用されている漢字語彙を覚える
	34 付箋に覚えたい漢字語彙を書いて自室やトイレの壁に貼り、繰り返し見る
	35 日本人の名前から漢字語彙を覚える
	36 SNSの記事を日本語で書く
⑦学習管理・協力 6項目	37 友達と漢字語彙の勉強方法についての情報を交換する
	38 おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ
	39 本やインターネットで漢字の勉強方法を探す
	40 漢字語彙について、日本人の友達に質問する
	41 漢字語彙について、先生に質問する
	42 他の人と協力して一緒に練習する

(注1) *の項目はDPUの予備調査にて抽出された新規ストラテジーである

質問紙調査は2016年11月に行なった。質問項目はすべてタイ語に翻訳したものをを用いて以下の4段階評定にて調査を行なった。4-いつも使用している 3-よく使用している 2-ときどき使用している 1-全然使用していない

4. 調査結果

有効な回答を得ることができた最終的な対象者は88名だった。4.1では、学習期間と漢字語彙学習ストラテジー使用について述べる。4.2では、88名の対象者全体における漢字語彙学習ストラテジー使用について述べる。

4.1. 学習期間の長さによる漢字語彙学習ストラテジー使用の傾向

対象者は、学習期間が1年から10年までの88名である。以下表2にて詳細を述べる。

表2 調査対象者の内訳

学習期間	人数
1年	9名
2年	11名
3年	10名
4年	22名
5年	20名
6年	6名
7年	6名
8年～10年	4名
合計 88名	

次に、これらの学習者を1-2年(20名)、3-4年(32名)、5-6年(26名)、7年以上(10名)の4つのグループに分けて、学習期間ごとの漢字語彙学習ストラテジー使用頻度の平均値の抽出を行った。以下表3に詳細を記す。

表3 学習期間別における漢字語彙学習ストラテジー使用の平均値と使用頻度順位

順位	1-2年 (20名)			3-4年 (32名)			5-6年 (26名)			7年以上 (10名)		
	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差
1	42	3.20	0.77	9	3.56	0.56	9	3.27	0.60	9	3.90	0.32
2	23	3.10	0.55	23	3.31	0.59	42	3.19	0.90	2	3.70	0.68
3	9	3.10	0.72	42	3.22	0.87	23	3.19	0.63	30	3.50	0.97
4	24	3.05	0.76	30	3.19	0.86	30	3.15	0.83	42	3.40	0.84
5	30	3.00	0.92	24	3.16	0.77	2	3.04	0.66	23	3.40	0.52
6	11	2.90	0.85	26	3.13	0.79	26	2.92	1.06	37	3.30	0.82
7	2	2.80	0.70	11	3.13	0.91	39	2.88	0.82	32	3.30	0.82
8	37	2.75	0.85	16	3.09	1.00	11	2.88	0.95	16	3.30	1.06
9	20	2.75	0.85	8	3.09	0.89	20	2.81	1.10	26	3.20	1.03
10	10	2.65	0.81	2	3.03	0.60	32	2.81	0.85	24	3.20	0.79

11	38	2.65	0.88	32	2.91	0.89	24	2.77	0.82	11	3.20	1.14
12	8	2.65	0.88	25	2.88	0.98	33	2.73	0.78	20	3.20	1.03
13	26	2.60	0.82	38	2.84	0.85	8	2.73	0.96	39	3.10	1.10
14	33	2.55	0.69	10	2.84	0.77	10	2.69	0.97	8	3.10	1.20
15	32	2.55	0.76	39	2.81	0.78	37	2.69	0.88	40	3.00	1.05
16	39	2.50	0.83	37	2.81	0.78	7	2.65	1.02	14	3.00	0.94
17	14	2.50	0.89	20	2.75	0.88	38	2.65	0.98	35	2.90	0.74
18	16	2.45	1.10	12	2.72	0.92	25	2.62	1.02	25	2.90	0.88
19	4	2.45	0.95	33	2.72	0.85	4	2.62	0.90	4	2.90	0.74
20	35	2.40	0.88	17	2.69	0.86	35	2.54	0.91	15	2.80	1.32
21	25	2.40	1.14	14	2.66	0.97	14	2.54	1.14	17	2.70	0.95
22	3	2.40	0.75	40	2.63	1.16	16	2.50	1.21	41	2.60	1.27
23	18	2.30	0.92	35	2.59	0.95	17	2.46	0.91	38	2.60	0.84
24	17	2.30	1.03	3	2.53	0.57	18	2.42	0.70	10	2.60	0.84
25	27	2.25	1.07	41	2.53	1.08	3	2.42	0.81	34	2.50	0.97
26	7	2.25	0.85	4	2.53	0.72	21	2.35	0.94	6	2.50	1.08
27	12	2.20	0.89	7	2.47	0.80	12	2.31	1.12	5	2.50	0.71
28	40	2.20	1.11	6	2.44	1.05	5	2.31	0.79	12	2.50	1.08
29	21	2.20	0.83	21	2.38	0.87	19	2.23	0.91	27	2.40	1.17
30	6	2.10	0.91	19	2.34	0.83	40	2.23	1.11	3	2.40	0.52
31	31	2.10	0.64	29	2.25	1.11	29	2.15	1.19	33	2.30	1.16
32	41	2.10	1.07	5	2.25	0.62	27	2.08	0.89	18	2.30	0.95
33	29	2.10	0.97	31	2.13	0.91	41	2.08	1.26	1	2.30	1.06
34	5	2.00	1.03	18	2.06	0.76	1	2.08	0.89	7	2.20	0.92
35	19	1.95	0.76	27	2.00	0.80	6	2.04	1.00	22	2.10	0.57
36	28	1.80	1.15	22	1.84	0.81	34	2.00	0.94	13	2.10	0.88
37	13	1.80	0.77	13	1.84	0.72	31	1.96	0.66	31	2.00	1.05
38	22	1.75	0.72	28	1.81	0.90	28	1.92	1.09	19	2.00	1.05
39	34	1.70	0.87	34	1.78	0.71	22	1.88	0.91	36	1.90	1.20
40	15	1.50	0.51	1	1.78	0.75	13	1.77	0.95	29	1.90	1.45
41	1	1.40	0.68	15	1.78	0.75	15	1.73	0.92	21	1.90	0.74
42	36	1.20	0.41	36	1.44	0.67	36	1.58	0.99	28	1.70	1.06

(注2) ・使用頻度平均値の上位5位、下位5位、中位19位～24位は二重線にて分け
 ・学習期間が半年の場合は1年として、1.5年の場合は2年として分類を行っている

4.1.1. 学習期間別における使用頻度上位の特徴

使用頻度上位5位までの特徴として以下の4項目がすべての学習期間において抽出されている。このことから、全ての期間の学習者にとって高い割合で使用されていることが明らかになった。

項目9「よく使う漢字語彙の意味を覚える (情意カテゴリー)」

項目23「よく使う漢字語彙の読み方を覚える (情意カテゴリー)」

項目30「漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える (情意カテゴリー)」

項目42「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ (学習管理・協力カテゴリー)」

「反復すること」については、項目24「心の中で繰り返し読み方を唱える (反復カテゴリー)」が、1-2年では4位、3-4年では5位に抽出されており学習期間が短い対象者にとって高頻度で使用さ

れている状況が推察できる。また、5-6年では11位、7年以上では10位に抽出されていることから学習期間が長くなるに連れて「反復すること」の使用頻度は徐々に低下していくが、ある一定の割合で使用され続ける普遍的なストラテジーだと考えられる。

一方、従来の先行研究で数多く報告されていた「繰り返し書いて覚える」ストラテジーだが、本調査において項目10「たくさん漢字語彙を書いて練習する（反復カテゴリー）」は1-2年が10位、3-4年と5-6年は14位、7年以上では24位という結果にとどまっている。この結果は、前述した項目24「心の中で繰り返し読み方を唱える」よりも全ての期間において使用頻度が低い。

以上のことから、学習者は反復カテゴリーの「心の中で繰り返し読み方を唱える」ストラテジーを一定の割合で使用しながら漢字語彙を定着させているが、「手を使って繰り返し書く」ストラテジーは、先行研究で報告されているほど多用されておらず、期間が長くなるに従って使用頻度も低下していることが明らかになった。

次に、平均値が3.00を上回ったストラテジーについて述べる。

4段階評定での調査のため、平均値が3.00以上の項目は学習者が「頻繁に使用している」と解釈することができるだろう。一方で、2.50以下の項目に関しては「あまり使用されていない」、2.00以下については「ほぼ使用していない」と解釈するものとする。1-2年では上位5項目、3-4年では上位10項目、5-6年では上位5項目、7年以上では上位16項目が3.00を上回っていた。以下、表4に詳細を記す。

表4 平均値3.00を上回っていたストラテジーの出現項目数

ストラテジー分類	1-2年	3-4年	5-6年	7年以上
	項目数			
①文脈	0	1	0	1
②情意	3	5	4	6
③反復	1	1	0	1
④理解・記憶補償	0	1	0	3
⑤関連付け	0	1	0	2
⑥積極的接触	0	0	0	1
⑦学習管理・協力	1	1	1	2
合計	5	10	5	16

表4の値より、7年以上の学習者が最も多様なストラテジーを使用しながら漢字語彙学習を進めている現状が明らかになった。一方で、1-2年の学習者と5-6年の学習者は5項目と同数だが、1-2年の学習者にのみ「反復カテゴリー」のストラテジーが抽出されている。

また、3-4年では10項目が3.00以上に抽出されている。ここでは「情意カテゴリー」のストラテジーが最も使用されているが、それ以外のストラテジーもバランス良く使用している状況がうかがえる。

4.1.2. 学習期間別における使用頻度下位の特徴

次いで、使用頻度下位5位までの特徴について述べる。ここでは、項目36「日本語の小説を読む（積極的接触カテゴリー）」が全ての期間において共通して抽出されており、どの対象者にもほとんど使用されていないことが明らかになった。

また、項目 15「日本人が書いたブログを読む（文脈カテゴリー）」が 1-2 年、3-4 年、5-6 年の学習期間では共通して下位 5 位に抽出されているのに対して、7 年以上では 20 位に抽出されている。さらに、項目 34「SNS の記事を日本語で書く（積極的接触カテゴリー）」が 1-2 年、3-4 年では 39 位だったのに対して、5-6 年では 36 位、7 年以上では 25 位と学習期間が長くなるに連れて使用順位が上昇している。このことから、学習期間が長くなるにつれて学習者は積極的に「生の日本語の文脈」に接している姿が明らかになった。

一方、項目 21「他の人と協力して一緒に練習する（学習管理・協力カテゴリー）」が 1-2 年、3-4 年では 29 位、5-6 年では 26 位に抽出されており、この戦略は各期間の学習者にとって共通して使用されていると推察できるが、7 年以上では 41 位と低い順位に抽出されている。

次に、平均値が 2.00 を下回った戦略について述べる。1-2 年では下位 8 項目、3-4 年では下位 7 項目、5-6 年では下位 6 項目、7 年以上では下位 4 項目が 2.00 を下回っていた。以下表 5 に詳細を記す。

表 5 平均値 2.00 を下回っていた戦略の出現項目数

戦略分類	1-2 年	3-4 年	5-6 年	7 年以上
	項目数	項目数	項目数	項目数
①文脈	4	4	3	2
②情意	0	0	0	0
③反復	0	0	1	0
④理解・記憶補償	0	0	0	0
⑤関連付け	1	0	0	0
⑥積極的接触	2	2	1	0
⑦学習管理・協力	1	1	1	2
合計	8	7	6	4

表 5 の値より、各期間に共通して最も使用されていない戦略は「文脈カテゴリー」だということが明らかになった。特に学習期間が 1 年から 4 年までの学習者にとっては 4 項目が抽出されており、使用頻度が低いという状況がうかがえる。また、「文脈カテゴリー」と「積極的接触カテゴリー」の戦略は、学習期間が長くなるにつれてその項目数が減少していく。つまり、期間の長い学習者ほど、文脈に対して積極的に接触するようになっていることが明らかになった。

4.1.3. 学習期間別における、使用頻度中位 19 位～ 24 位についての特徴

ここでは、項目 17「繰り返し指で空書を行い筆跡をイメージする（反復カテゴリー）」がすべての学習期間において共通して抽出されており、どの対象者においても平均的に使用されていることが明らかになった。

4.2. 対象者 88 名全体の戦略使用頻度の結果

4.2.1. 88 名全体の上位 10 項目

本節では、対象者 88 名全体の戦略使用頻度を上位順から以下表 6 にて述べる。

上位 5 位までの項目において「情意カテゴリー」の戦略が 4 項目と多く含まれており、

表6 対象者88名全体のストラテジー使用頻度上位10項目

順位	ストラテジー項目	分類	平均値 (標準偏差)
1	9 よく使う漢字語彙の意味を覚える	②情意	3.41 (0.64)
2	23 よく使う漢字語彙の読み方を覚える	②情意	3.24 (0.59)
3	42 おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ	⑦学習管理・協力	3.23 (0.84)
4	30 漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える	②情意	3.17 (0.87)
5	2 自分にとって重要な漢字語彙を覚える	②情意	3.06 (0.68)
6	24 心の中で繰り返し読み方を唱える	③反復	3.02 (0.79)
7	11 前後の文脈で、漢字語彙の意味を推測する	④理解・記憶補償	3.01 (0.93)
8	26 漢字語彙と一緒に読み方を書いて覚える	⑤関連付け	2.95 (0.92)
9	8 日本語の歌の歌詞を読む	①文脈	2.89 (0.95)
10	32 漢字語彙の意味をその語彙に含まれる漢字の部首で推測する	④理解・記憶補償	2.84 (0.86)

DPUの学習者に最も使用されているストラテジーは「情意カテゴリー」であることが分かった。また、今回の調査では「反復カテゴリー」のストラテジーが上位10項目中、1項目しか抽出されていない。このことから、学習者は先行研究で報告されていた「何度も繰り返して記憶する」方法よりも、3位「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ」、4位「漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える」といった、学習環境や教材を自分で管理しながら漢字を学習する傾向が高いことが明らかになった。

4.2.2. 88名全体の下位10項目

次に、表7にてストラテジーの使用頻度を最下位42位から順に述べる。

表7 対象者88名全体のストラテジー使用頻度下位10項目

順位	ストラテジー項目	分類	平均値 (標準偏差)
42	36 日本語の小説を読む	①文脈	1.48 (0.82)
41	15 日本人が書いたブログを読む	①文脈	1.82 (0.90)
40	28 漢字語彙について、日本人の友達に質問する	⑦学習管理・協力	1.83 (1.02)
39	13 すきま時間にフラッシュカードで繰り返し練習する	⑥積極的接触	1.84 (0.86)
38	1 日本語で日本のマンガを読む	①文脈	1.84 (0.82)
37	22 日本語で書かれたニュースをインターネットで読む	①文脈	1.86 (0.79)
36	34 SNSの記事を日本語で書く	⑥積極的接触	1.91 (0.87)
35	31 繰り返し読み方を口に出しながら覚える	③反復	2.06 (0.79)
34	27 日本人の名前から漢字語彙を覚える	⑥積極的接触	2.13 (0.93)
33	29 日本語でテレビゲームをする	①文脈	2.15 (1.13)

使用頻度下位10位において「文脈カテゴリー」に関連するものが5項目と、「積極的接触カテゴリー」に関連するものが3項目抽出されている。このことから、対象者は小説やマンガ、ニュース、ブログといった実際に日本語で書かれた一般向けの文章に対して「積極的に接する」ことが少なく、「文脈カテゴリー」のストラテジー使用頻度も低いことが明らかになった。また、「フラッシュカードを利用する」「繰り返し読み方を口に出しながら覚える」の項目は、ソムチャイ (2008)

で報告されていた結果と同様に低い使用頻度となっていた。

4.2.3. 88名全体の漢字語彙学習ストラテジー分類に関わる基礎統計量と相関係数

この節では、漢字語彙学習ストラテジーの7つのカテゴリー間に相関関係があるのかを検討するため、ピアソンの積率相関係数を算出した。以下表8に詳細を記す。

表8 88名全体の漢字語彙学習ストラテジー分類に関する相関係数

ストラテジーの カテゴリー分類	平均値	標準偏差	相 関 係 数						
			文脈	情意	反復	理解・ 記憶補償	関連付け	積極的 接触	学習管理・ 協力
文脈	2.01	0.61	1						
情意	3.08	0.48	.353**	1					
反復	2.59	0.50	0.18	.451**	1				
理解・記憶補償	2.70	0.56	.337**	.532**	.478**	1			
関連付け	2.49	0.52	.313**	.598**	.642**	.750**	1		
積極的接触	2.21	0.49	.477**	.415**	0.18	.420**	.367**	1	
学習管理・協力	2.49	0.53	.386**	.450**	.528**	.525**	.508**	.423**	1

(注3) 最も相関の高い項目と、相関が観察されなかった項目は塗りつぶしを行っている ** $p < .01$

表8より、1%水準で有意に正の相関関係が観察された。最も高い相関関係がみられるのは「関連付けカテゴリー」と「理解・記憶補償カテゴリー」である ($r=.750^{**}$)。次いで、「関連付けカテゴリー」と「反復カテゴリー」($r=.642^{**}$)、「関連付けカテゴリー」と「情意カテゴリー」($r=.598^{**}$)が続く。相関の数値が高い上位3位に「関連付けカテゴリー」のストラテジーが抽出される結果となった。

この結果より、学習者は漢字語彙のルールを見つける、音楽を聞きながら歌詞と漢字語彙を頭の中で結びつけるといった「関連付けカテゴリー」のストラテジーと、漢字語彙の意味推測や記憶の定着を図る「理解・記憶補償カテゴリー」のストラテジーを積極的に結び付けて使用している傾向が示唆される。また、「反復カテゴリー」に関連するストラテジーと、自分にとって重要な漢字語彙を判断し、音楽を聞いてリラックスして覚えるといった「情意カテゴリー」のストラテジーとの関連性が強い傾向がうかがえる。

一方、相関がみられなかったストラテジーは「反復カテゴリー」と「文脈カテゴリー」、「反復カテゴリー」と「積極的接触カテゴリー」の2つであった。繰り返しを伴う「反復カテゴリー」のストラテジーを好む学習者は、「文脈カテゴリー」や「積極的接触カテゴリー」のストラテジーとの関連性がほとんど認められていない ($r=.18$)。先行研究において、漢字学習成功者は文脈の中で漢字を使用している傾向が高い(ウラムバヤル 2009)という指摘がされている。また、漢字学習成功者は既習漢字の保持と復習に繋がる努力を教室外でも積極的に行っている(中鉢 2006)といった指摘がされていた。調査結果4.1では、学習期間が短い学習者ほど「文脈カテゴリー」のストラテジー使用頻度は低いことが明らかになっている。以上のことから、「反復カテゴリー」のストラテジーを多用しているのは、「文脈カテゴリー」や「積極的接触カテゴリー」のストラテジーと関連性が低い「学習期間の短い学習者」であると考えられる。

5. 考察

5.1. 学習期間の長さに「関係しない」と推察されるストラテジー

日本語学習の期間が長くなることによる漢字語彙学習ストラテジーの使用状況の変化について、使用頻度上位5位においては明らかな違いがみられなかった。上位5位の特徴は、以下4項目が全ての学習期間において抽出されていることである。

項目9「よく使う漢字語彙の意味を覚える（情意カテゴリー）」

項目23「よく使う漢字語彙の読み方を覚える（情意カテゴリー）」

項目30「漢字は自室など一人だけの環境で集中して覚える（情意カテゴリー）」

項目42「おもしろそうな教科書や参考書を自分で選ぶ（学習管理・協力カテゴリー）」

これらの4項目は、齊藤（2003）で報告されている、学習期間の長さに関わりなく使用割合が変化しない普遍的な「一般的なストラテジー」だと言えるだろう。

5.2. 学習期間の長さに「関係する」と推察されるストラテジー

使用頻度上位5位では明らかな特徴の違いがみられなかったが、下位5位では違いがあらわれた。以下表9に詳細を記す。

表9 学習期間別における漢字語彙学習ストラテジーの使用頻度順位（上位5位・下位5位）

順位	1-2年 (20名)			3-4年 (32名)			5-6年 (26名)			7年以上 (10名)		
	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差	項目	平均値	標準偏差
1	42	3.20	0.77	9	3.56	0.56	9	3.27	0.60	9	3.90	0.32
2	23	3.10	0.55	23	3.31	0.59	42	3.19	0.90	2	3.70	0.68
3	9	3.10	0.72	42	3.22	0.87	23	3.19	0.63	30	3.50	0.97
4	24	3.05	0.76	30	3.19	0.86	30	3.15	0.83	42	3.40	0.84
5	30	3.00	0.92	24	3.16	0.77	2	3.04	0.66	23	3.40	0.52
38	22	1.75	0.72	28	1.81	0.90	28	1.92	1.09	19	2.00	1.05
39	34	1.70	0.87	34	1.78	0.71	22	1.88	0.91	36	1.90	1.20
40	15	1.50	0.51	1	1.78	0.75	13	1.77	0.95	29	1.90	1.45
41	1	1.40	0.68	15	1.78	0.75	15	1.73	0.92	21	1.90	0.74
42	36	1.20	0.41	36	1.44	0.67	36	1.58	0.99	28	1.70	1.06

(注4) 上位5位内の共通項と、本節で言及している項目は塗りつぶしを行っている

1-2年、3-4年、5-6年の学習期間では、共通して最下位に抽出された項目36「日本語の小説を読む」が7年以上では39位へと上昇している。このことから学習期間が長くなるに従って、学習者は「生の日本語の文脈」に触れる機会が多くなっていることが推察できる。

また、項目36に代わって7年以上の最下位42位に抽出されたストラテジーは、項目28の「漢字語彙について、日本人の友達に質問する」であった。この項目は1-2年、3-4年、5-6年の学習期間においては26、29位に見られており、一定の頻度で使用されているストラテジーだと考えられる。

さらに、7年以上の学習者では項目21「他の人と協力して一緒に練習する」が41位に抽出され

ていることから、学習期間が長くなると他者と協力して練習する機会が減少し、代わりに自分一人で漢字語彙を学習する傾向が高くなっているものと考えられる。この結果は、学習期間が長くなり語彙が増加したことや、スマートフォンの翻訳アプリなどで語彙を検索する方法を習得したことなどが影響していると推察される。また、学習者にとって興味のある日本のコンテンツや、日本語話者と接触する機会が増加した結果、日本語の文脈に触れる機会も促進されていると考えられる。

5.3. 「何度も繰り返す」戦略使用状況の変化

項目24「心の中で繰り返し読み方を唱える」が、1-2年と3-4年の学習者において4位・5位の上位に抽出されており、学習期間の短い学習者が高頻度で使用している現状が明らかになった。

一方で、5-6年、7年以上ではそれぞれ11位、10位程度での使用に留まっているため、学習期間が長くなるに従い使用頻度が低下していると言えるだろう。

また、学習期間が短い学習者は「何度も繰り返す」戦略について「効果がある」と肯定的に捉えているため、その他の戦略を使用していない可能性も考えられる。予備調査の際、全ての学習者は「漢字は繰り返し書くと覚えられる」という指導を以前受けたことがあると述べていた。さらに、学習歴が1年未満の学習者は「繰り返し書く方法が一番良い」と反復戦略へ肯定的な意見を語っていたが、その他の具体的な漢字語彙学習戦略の存在については「知らない」と述べている。

その一方、高校から日本語を学び成績も良い学習者は、繰り返し書くことに「否定的な意見」を述べている。この対象者によると基本的に「書くのは面倒だから見て覚えている」が、「もし、本気で覚えたい時は書いて覚えることもある」と述べていた。

以上のことから、学習期間が長い学習者は複数の戦略を獲得しており、その時の状況や気分によって使用する戦略を適宜選択していると考えられる。しかし、学習期間が短い学習者は使用できる戦略が少ないため、種類も偏ってしまうのではないだろうか。DPUでは漢字語彙学習戦略を学ぶ時間はほとんど存在しない。そのため、学習者は自身で漢字語彙学習戦略を模索する必要がある、個々の努力によって新たな戦略を獲得していくものと推察される。

6. おわりに

本稿では、日本語学習者の「漢字語彙学習戦略」という観点から、①新たな漢字語彙学習戦略尺度の開発。②具体的な漢字語彙学習戦略使用の傾向と現状解明。③学習期間の長さによる、漢字語彙学習戦略使用の変化を明らかにするという3点の目的で調査を行った。

①については、JFL環境下のタイで学ぶ日本語学習者へ向けて、新たな漢字語彙学習戦略の質問調査項目の作成を行った。「単漢字」や「文字としての漢字」に着目した従来型の「漢字学習戦略」ではなく、文脈での漢字語彙に関する質問項目を含んでいるのが特徴である。また、カテゴリー分類の項目数を揃える改善も行っている。

②については、88名全体の上位5位までの項目において「情意カテゴリー」の戦略が4項目と多く含まれていた。このことから、DPUの学習者に最も使用されている戦略は「情意カテゴリー」であることが判明した。また、先行研究では「繰り返し書いて覚える」戦略が最も使用されていると報告されていたが、本研究では全ての期間において「心の中で繰り返す」

返し読み方を唱える」ストラテジーの方がより上位に抽出された。このことから、学習者にとって「手」を使うストラテジー使用が低下している傾向が示唆された。さらに、学習期間が短い学習者ほど「反復カテゴリー」のストラテジーを多用していることが明らかになった。

③については、学習期間が長くなることによる漢字語彙学習ストラテジー使用状況の変化について、使用頻度上位5位においては明らかな違いがみられなかった。また、学習期間が長くなると他者と協力して練習する機会が減少し、代わりに自分一人で漢字語彙を学習する傾向が示唆された。

7. 漢字教育への提案と今後の課題

今回の調査結果から得られた示唆を基に、今後の漢字語彙教育に対して提案を述べる。

まず、DPUでも行われていた、単漢字を何度も繰り返し書かせるだけの漢字指導には再考の余地があると思われる。「手」を使って機械的に繰り返し書く漢字練習シートや、テストで間違った漢字を何度も書かせるような課題は、単純な「書く作業」になってしまう可能性が高く、学習の有効性は低いと考えられる。今後は単漢字ではなく、漢字語彙としての指導を進める必要があるだろう。

次に、教師自身が漢字語彙学習ストラテジーの重要性について十分に知識を深め、効果的な指導を計画的に行っていく必要があると考える。コースシラバスを作成する段階で、ストラテジー指導の時間を設定しておけば、学習者の「気づき」「意識化」を促進し、より、使いやすく効果的な漢字語彙学習ストラテジーを獲得する助けになることができるだろう。漢字語彙学習を一方的に学習者へ委ねることは避けるべきである。

また、今後の課題として調査範囲の拡大が挙げられる。本稿はタイにおける日本語専攻が設置された大学の内、DPUだけの学習者分析にとどまっているので、結果を一般化することはできない。今後は他機関とも連携して、さらに幅広く調査を行う必要があるだろう。特に授業内やコースカリキュラムにおいて、漢字を学ぶ時間がある機関ではDPUとは異なる結果が得られると推察される。これからも学習者にとって効果的な漢字語彙教育について考え続けていきたい。

付記

本稿は2017年度にタイ国チュラーロンコーン大学で執筆した修士課程の修了レポート「タイ人日本語学習者の漢字語彙学習に対するストラテジー使用の現状」の一部を加筆修正したものである。

引用文献

- ヴェントゥーラ, フランチェスカ. (2007) 「フィリピン人日本語学習者と教師の漢字学習に対するビリーフとストラテジー使用—漢字教育の改善のために—」『日本語文化研究会論集』3, 141-168.
- ウラムバヤル, ツェツェグドラム. (2009) 「漢字学習ストラテジーに関する研究の現状と課題—非漢字圏日本語学習者にとっての効果的な学習ストラテジーとは—」『日本言語文化研究会論集』5, 43-52.
- 大北葉子. (1995) 「漢字学習ストラテジーと学生の漢字学習に対する信念」『世界の日本語教育』5, 105-123.
- オックスフォード, R. L. (1990) 『言語学習ストラテジー—外国語教師が知っておかなければならないこと—』 宍戸通庸・伴紀子訳, 凡人社.
- 齊藤禎子. (2003) 「漢字学習ストラテジーと学習期間との関係: 留学中のマレーシア政府派遣留学生を対象とした調査から」『山形大学日本語教育論集』5, 71-84.
- 坂野永理・池田庸子. (2009) 「漢字圏学習者の漢字学習意識とストラテジー使用」『留学生教育』14, 13-21.
- 佐藤曜子・笠原(竹田) ゆう子. (2016) 「初級から中級にかけて伸びが見られた非漢字圏学習者の漢字学習ストラテジー」『日本語教育方法研究会誌』22(3), 70-71.
- ソムチャイ, チャイヤケッタナン. (2008) 「タイ人日本語学習者の漢字学習に対するビリーフとストラテジー使用」チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座 修士論文.

- 谷口美穂. (2016) 「日本留学志望のマレーシア人学習者の漢字学習ストラテジー—学習期間にともなう変化と成績による使用傾向の特徴—」『国際交流基金日本語教育紀要』 **12**, 7-23.
- 豊田悦子. (1995) 「漢字学習に対する学習者の意識」『日本語教育』 **85**, 101-113.
- 中鉢恵一. (2006) 「漢字学習ストラテジー—漢字学習成功者と未成功者の違いについて—」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』 **5**, 75-93.
- 中村重穂. (1997) 「日本語学習者の漢字学習ストラテジーに関する調査と考察」『日本語教育研究』 **33**, 107-122.
- マテラ, ユラ. (2013) 「特定課題研究報告 チェコの大学における日本語学習者の漢字学習に対する意識とストラテジーに関する調査」『日本言語文化研究会論集』 **9**, 65-92.
- 渡部倫子. (2015) 「非漢字圏学習者のための漢字語彙学習ストラテジー尺度の開発」『漢字・日本語教育研究』 **4**, 30-64.
- Bourke, Barbara. (2006) *Strategy Inventory for Learning Kanji (SILK) Test Instrument for Identifying Strategies in Use for Learning Kanji*. <http://kanji-silk.net/profile/index.php> (2016年9月19日閲覧).